

第三期文化芸術振興基本計画(案)に対する意見結果とそれに対する県の考え方

【募集期間】令和3年2月22日(月)から令和3年3月23日(火)

【募集結果】4名7件

番号	御意見の要旨	御意見に対する県の考え方
1	和歌山県のみならず、地方ではプロの芸術家と触れ合ったり直接指導を受ける機会ははとて少ないです。 スポーツではよく聞きます。(先日のイチロー選手など) そういった機会がたくさんあれば、個人のレベルや意識の向上、和歌山県全体の芸術文化の向上につながる。	県内の子供達に芸術への興味や関心を持ってもらうため、プロのアーティストから新人・新進芸術家に至るまで、学校などで児童生徒等に対して演奏や直接指導を行う「アウトリーチ事業」を実施します。
2	国民文化祭開催後の展開。 全国的で大規模な国民文化祭の開催で、培った行政や文化団体の経験力をいかし、熱冷めぬうちに、新しいかたちの和歌山独自の大芸術祭を継続的に開催できるよう計画して欲しい。	「紀の国わかやま文化祭 2021」開催後も、文化祭での経験や体験を生かして活動を継続していくために、きのくに文化月間を創設し、期間中は県内全域で様々な文化イベントの開催を促し、文化芸術活動への参加を促進します。
3	新しい手法による文化公演等の開催では、動画配信やSNSを利用したの情報配信が考えられますが、うまく活用すれば素晴らしい発信力を生み出すと思います。それにはまず、官民一体となって、情報連絡網を構築する必要があると思います。そこで、まず各文化芸術団体は、デジタル化を不得手とする傾向が強いため、文化芸術団体担当者向けの、IT研修会を開催して欲しい。	文化芸術団体の意見を集約し、文化芸術団体が希望する研修を実施できるよう取り組んでまいります。
4	県立図書館メディアアートホールにおける文化公演等の開催について、コーディネーターの企画による多彩な文化事業の実施とありますが、近年、施設改修などでクラシック音楽専用ホールとなっていますので、他のジャンルの実施は難しいのではないかと。	メディア・アート・ホールは多目的ホールとして運営しておりますが、改修工事に伴い、ジャンルによっては一部支障が出てくる可能性があります。使用については、事前に実施可能か確認いただくとともに、できる限り対応してまいります。
5	交流活動の推進は全体計画の実現に向けて、重要事項だと思います。文化芸術協議会の育成、さらに行政や産業界との交流も行って欲しい。	芸術家や文化関係団体間の連携を推進するとともに、広範な産業分野の諸団体等とも連携しながら、活力ある地域づくりに資する文化芸術振興事業に取り組んでまいります。
6	学校教育において「邦楽」が必須科目となっている事などを好材料とし地域の公的施設や学校などで「ワークショップ」を開催し、和楽器に触れる体験や実演を披露し、後継者をつくる機会をつくって欲しい。	県内の子供達に芸術への興味や関心を持ってもらうため、プロのアーティストから新人・新進芸術家に至るまで、学校などで児童生徒等に対して演奏や直接指導を行う「アウトリーチ事業」を実施します。
7	県民文化会館のホールの音響が良くないので、音響設備の充実を図ってほしい。	県民文化会館の音響設備を含む設備の更新について、計画的に取り組んでまいります。